



令和5年度 北部教育事務所 学校応援BOOK

1 主体的・対話的で深い学びの実践集



2 「授業振り返りシート」実践事例集



3 「総合的な学習の時間」実践紹介



令和5年度 北部教育事務所 「学校応援BOOK」

目次

1 主体的・対話的で深い学びの実践集

(県・全国学調「分析・活用・実践」研修会、北部地区授業力向上研究会)

ページ	教科	指導者・授業提案者
P.1 ~ P.2	国語	
P.3 ~ P.4	算数・数学	
P.5 ~ P.6	英語	
P.7 ~ P.18	【小学校】生活科	
P.19 ~ P.28	【中学校】技術・家庭 (家庭分野)	

2 「授業振り返りシート」実践事例集

(~令和5年度学校訪問等から~)

ページ	教科等	ページ	教科等
P.29	【小】国語	P.30	【中】国語
P.31	【小】社会	P.32	【中】社会
P.33	【小】算数	P.34	【中】数学
P.35	【小】理科	P.36	【中】理科
P.37	【小】音楽	P.38	【中】音楽

P.39	【小】 図画工作	P.40	【中】 美術
P.41	【小】 体育	P.42	【中】 保健体育
P.43	【小】 生活	P.44	【中】 技術
P.45	【小・中】 家庭	P.46	【小】 外国語活動 外国語
P.47	【中】 英語	P.48	【小】 道徳
P.49	【中】 道徳	P.50	【小・中】 総合
P.51	【小】 学級活動	P.52	【中】 学級活動
P.53	【小】 特別支援	P.54	【中】 特別支援

3 「総合的な学習の時間」実践紹介

ページ	教科	実践校
P.55 ~ P.56	総合的な学習の時間	寄居町立寄居中学校 寄居町立城南中学校 寄居町立男衾中学校

1 主体的・対話的で深い学びの実践集

県・全国学調「分析・活用・実践」研修会

北部地区授業力向上研究会

P.1 ~ P.28



国語

令和5年10月26日（木） 熊谷地方庁舎

1 学力・学習状況調査（県・全国）「分析・活用・実践」のポイント

学力・学習状況調査（県・全国）の結果の分析や活用、教科の課題と改善策を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の授業実践について研修し、北部地区の教員の指導力向上を図るため、講義・協議・演習を実施した。

（1）講義 **分析**

3つの分析をもとに北部地区の課題と改善策をつかむ。



【課題】

分析①（県学調）

学年が上がるごとに学力レベルは県と差が開く傾向があり、中位層が伸び悩んでいる。小学4年生での学力差を中学3年生までに埋めることは難しい。

分析②（全国学調）

書くことについて県を上回る傾向が見られたが、全国と同様に条件に合った文章を書く問題（小学校）や読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめ、文章を整える問題の正答率が低い。

分析③（授業から）

言語活動そのものが目的になっている、国語の用語への理解が不十分である。ぶつ切りの授業、ICT機器を使うこと自体が目的、などの要因から「何を学んだのかわかりづらい」授業が見られる。

【改善策】

- 単元を通して重点指導事項をしぼる。相手意識と目的意識を明確にした魅力的な言語活動を設定し、単元のゴールを学習者と共有する。
- 単元に系統性をもたせるため、教科書を時系列や教科書会社別に読み比べる。
- 重要な用語（要約・段落など）の定義と学ぶ時期を把握し、学びの土台を揃える。

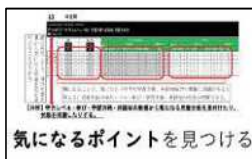
（2）協議 埼玉県学力・学習状況調査 **活用**

協議① 県学調の帳票を活用し国語の授業改善につなげるにはどうしたらよいだろうか。

帳票40…伸びの要因となる具体的な実践を探り、共有する。

帳票28…どの層が伸び、どの層が伸び悩んでいるのか把握し、集団の傾向をつかむ。

帳票09…問題の困難度レベルと正答率に着目し、報告書を参考に授業改善案を考える。



協議② 分析をどのように授業改善に活かせばよいだろうか。

- 帳票は県学調で測ることができる学力を分析した科学的な根拠となる。分析結果から自校の傾向を明らかにしたうえで、実際に伸ばした校内の実践を共有したり、「優れた授業技術の共有・工夫（映像）」の動画を「導入」「学び合い」などポイントを絞って授業改善の参考にしたりする。

優れた授業技術の共有・工夫（映像）
★視聴には各校に配布済のIDとパスワードが必要です

(3) 演習 全国学力・学習状況調査 実践

演習① 解答類型を基にした誤答分析

<p>STEP 1 問題文を把握する</p> <p>STEP 2 解答類型から誤答の傾向を見る</p> <p>STEP 3 誤答の割合の高いものを把握する</p> <p>STEP 4 誤答例からつまづきの原因を予想する</p> <p>STEP 5 つまづきの原因を情報交換する</p> <p>STEP 6 自身に何ができるか考える。</p> <p>STEP 7 自校で実践する</p> <p>STEP 8 実践を共有する</p>	<p>小学校…大問 1-2</p> <p>全国26.7% 県26.1% 北部26.6%</p>	<p>中学校…大問 3-1</p> <p>全国54.3% 県55.3% 北部50.0%</p>
--	---	---

正答率に課題があった問題の解答類型と反応率をもとに、つまづきの原因と授業改善の具体案について協議を行った。

【小学校】グラフは国語科を中心に他教科でも活用する。グラフの効果を考えて推敲する活動を取り入れたり、教師がモデルを提示したりすることが効果的である。

【中学校】作業的に推敲させるのではなく、読み手の立場に立って文章を整えさせたり、推敲の前後を比較し、書き換えた理由や意図を考えさせたりすることが効果的である。

演習② 授業づくりシートの活用 ～重点指導事項を明確にした単元の工夫～

<p>授業づくりシート</p> <ol style="list-style-type: none"> 教材の特徴をつかみ、指導事項から単元でつきたい力を決める。 目標を達成できる言語活動を決める。 単元のゴール（児童の姿）を具体的に考える。 活動のイメージと何を学ぶかが児童生徒と共有できるような単元名を考える。 振り返りシートを元に「主体的・対話的で深い学び」の具体を考える。 	<p>【学習指導】※「授業づくりシート」を参考にしよう。</p> <p>全般的に「児童の姿」を定めていくように指導する。授業の課題に多くの時間を費やすよう、目標は簡潔のみとして授業中は取り組まないう。また、児童の姿を定めていくように指導する。</p> <p>授業は既成の型に固まらないように、児童の姿を定めていくように指導する。児童の姿を定めていくように指導する。</p> <p>「児童の姿」を定めていくように指導する。児童の姿を定めていくように指導する。</p> <p>児童の姿を定めていくように指導する。児童の姿を定めていくように指導する。</p> <p>児童の姿を定めていくように指導する。児童の姿を定めていくように指導する。</p> <p>課題→改善案</p>	<p>課題のある授業づくりシートを協力して修正しましょう。</p> <p>STEP1~4</p> <p>STEP5~6</p> <p>全体交流</p> <p>STEP1 この単元でつきたい力を確認する。 STEP2 教材の特徴を確認する。 STEP3 課題のある【単元のゴール】と【児童の姿】を確認する。 STEP4 単元のゴール【児童の姿】を修正する。 STEP5 小学校は中学校、中学校は小学校のシートも修正して、STEP6 共通する課題と改善案について協議する。</p>
---	---	--

単元で付けたい力と指導事項、目標を達成するための言語活動、単元のゴール（児童の姿）を明らかにしたうえで「主体的・対話的で深い学び」の具体を「課題のある授業づくりシートをグループで修正する。」演習を行った。

2 参加者の感想

- ・研修会のスタイル自体が望ましい授業づくりの形式になっていて大変参考になった。
- ・学力向上の手立てを日々の授業に落とし込むことが課題であるが、国語科として児童に何を身に付けさせたいのか、目標やゴールを明確にして学習に臨むという基本を学校全体で実践できるよう働きかけることが今すぐできることだと思った。
- ・研修会に参加して県学調や全国学調の結果のどこを見て、どのように改善につなげていけばよいかとても明確になった。
- ・全国学調で一番知りたかった書く問題についてピックアップして考え合うことができたので、このような問題が解ける児童の育成に今後取り組みたい。
- ・特に後半の全国学調の解答類型から授業実践のプランを考える演習の手法については校内の他の職員にも伝え、実践できるようにしたい。
- ・分析結果をどう生かしていくかという課題をもとに協議・演習を行い、日頃一人で悩んでいた事を吐き出せるよい機会だった。自校の課題と重なる点も多々あり、自分ごととして考えることができた。
- ・全国学調の問題一つで1時間授業をやってみたくなるほど有意義な話し合いができた。



算数・数学

令和6年1月17日（水） 熊谷地方庁舎

1 学力・学習状況調査（県・全国）「分析・活用・実践」のポイント

学力・学習状況調査（県・全国）の結果の分析や活用、教科の課題と改善策を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の授業実践について研修し、北部地区の教員の指導力向上を図るため、講義・協議・演習を実施した。

（1）埼玉県学力・学習状況調査の講義・分析・協議 **分析** **活用**

県学調のねらいと特長、学力の捉え方、一部の帳票の見方や北部管内（算数・数学）の結果概要についての講義をした。また、帳票28を用いて、北部管内の学力層の伸びを参会者で分析した。

課題として、「中位層の伸び悩み」があがった。どのように授業改善を行っていけばよいのかという視点で、具体的な方策や取り組みについて協議をした。

<p>各層の伸びの状況にどんな特徴が見られましたか？</p>	<p>質問</p> <p>中位層の児童生徒は、授業中どのような状態・様子ですか？</p>	<p>グループで話合</p> <p>中位層の児童生徒の学力の伸びを大きくするにはどのような授業改善をしたらよいと考えますか？</p>
--------------------------------	---	---

【（理解できている or よく反応する）一部の児童生徒だけで授業を進めず、中位層も含めて、どの児童生徒も参加できる授業にするために】

○教師が意図的に問い返しなが、児童生徒の言葉で語らせ、つまずきやポイントに焦点を当てながら、学級全体で解決していく。

（例）・教師の問いかけに答えた一人の児童生徒の反応で授業を進めない

- ・他の児童生徒（全体）に問い返す、説明させる
- ・復唱する
- ・目立たせる

【県学調の活用について】

- 学力層の推移の分析
 - ・学力の伸びや学習状況の分析（集団・個）
 - ・実態に応じた授業改善
- 学級全員が学びを実感できる授業の実施
 - ・授業に参加したら「分かるようになった」「解けた」「できることが増えた」ということを感じられるような授業展開
- 組織で分析し、共通理解を行って取り組む

（2）全国学力・学習状況調査の講義・誤答分析・協議 **分析** **活用**

全国学調のねらいや学力の捉え方、北部管内（算数・数学）の結果概要についての講義をした。また、正答率に課題があった問題の解答類型と反応率をもとに、課題点や授業においてどのような学習指導が大切なのかについて協議をした。

<p>学習指導要領が求めている、その学年（小6・中3）までに育成することを旨とする資質・能力を、調査問題として具体的なメッセージで示している。</p>	<p>R5 小学校 大問2(4)</p> <p>上の図に示す三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その答えを答えなさい。また、その考え方を簡潔に記述し、算式や図を添えてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 底の長さは7.8cm。 2 底の長さは5cm。 3 底と高の長さは等しい。 4 底と高の面積は、このままでは計算することができない。 	<p>R5 中学校 大問9(1)</p> <p>図のように、直角三角形の斜辺を底辺とし、その高さを求めなさい。</p> <p>解答</p> <p>3cm</p>
---	--	--

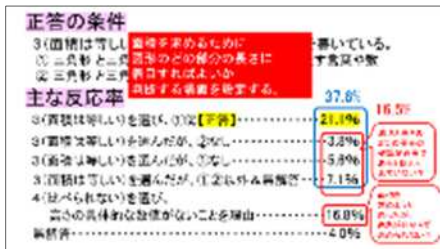
【北部管内の結果から特に課題の見られた問題】

【小学校】 大問2(4) 【中学校】 大問9(1)

【反応率の分析（課題からみる、大切にしたい学習指導）】

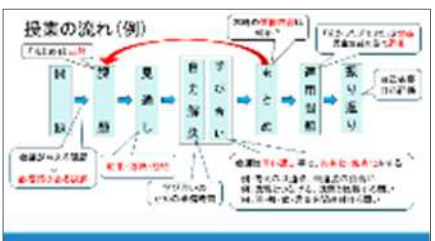
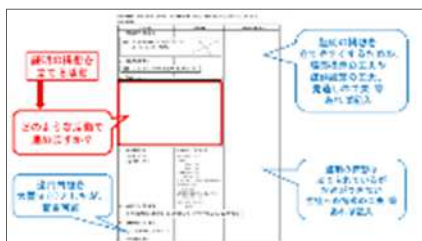
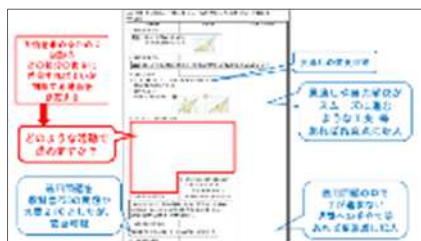
【小学校】 面積を求めるために、図形のどの部分の長さに着目すればよいか判断する場面を設定すること

【中学校】 証明の構想を立てる活動、証明の方針を確認する場面（証明の見通しをもつ場面）を設定すること



(3) 全国学力・学習状況調査の誤答分析を踏まえた授業づくり演習 **実践**

協議からあがった授業において大切な学習指導を踏まえ、教科書にある具体的な題材を用いて、話し合いたい場面を明確にしながら授業づくりを行った。



最後に、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた算数・数学の授業づくりについて、学校訪問等の写真を見ながらポイントを共有した。

2 参加者の感想

- ・学調結果分析を行うと、どうしても「でき」や「伸び」にのみに目が向いてしまい、そこで終わってしまうが、その次の「授業をどうするか」までつなげることが価値のあることなのだと感じた。他校の先生方と授業づくりについて深く話すことはとても楽しく、勉強になった。あっという間に終わってしまったと思うくらい充実していた。
- ・学力向上担当として、本校も中位層の伸びがよくなく、改善策が1人でなかなか思い浮かばず正直苦しい状況だった。県の様子、北部の様子を伺い、先生方と情報共有や策について話せて、とても心が軽くなった。学校でも研修があるので、先生方にお伝えしたい。
- ・学力向上担当として、学力調査の分析をした後、どのように活用・実践していくべきか困っていたので、本研修がとても参考になった。いろいろな先生方の話を聞き、考えを共有したり深め合ったりすることで、よりよい授業の策が出てきた。久しぶりに多くの先生方と集まることができ、とても充実した研修となった。
- ・各種学調の問題は応用・発展的な内容が多く「教科書だけでは十分に指導できない」と考えていた。しかし、扱い方によって十分に教科書の問題でも対応できると分かった。そのためにも、誤答分析を適確に行い、授業に生かしていきたい。

英語

令和6年2月1日（木） 熊谷地方庁舎

1 学力・学習状況調査（県・全国）「分析・活用・実践」のポイント

学力・学習状況調査（県・全国）の結果の分析や活用、教科の課題と改善策を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」の授業実践について研修し、北部地区の教員の指導力の向上を図るため、講義・協議・演習を実施した。

（1）講義（分析・協議） 分析

全国学調と県学調の目的や違い、分析の視点などについて講義し、参会者の考えや実践など、対話を通して協議を深めた。後半は全国学調の「書くこと」「読むこと」に焦点を当て、どのように授業改善につなげるかという視点で、具体的な方策や各校の取組を紹介した。

質問

**県学調（英語）と
全国学調（英語）の
違いは何ですか？**

メインテーマ「書くこと」

書くこと	45.8	42.9	43.5
読むこと	42.1	38.5	18.9

正答率
H31 43.5
R5 18.9
△24.6

前回と比べて難しくなったのか？
全国学調「書くこと」の問題内容は？

どんな力が求められているのか

- ・情報を正確に読み取る
- ・必要な情報を読み取る
- ・概要、要点を捉える

授業内の活動はどうか？

【結果分析を授業改善に生かす視点】

- ・生徒のつまずきをきめ細かく把握し、生徒にとって必要感のある指導を行う。
- ・初見の英文に触れさせ、英語語順での内容理解を身に付けさせる。
- ・「特定の言語材料活用」と「既習内容活用」のバランスを工夫して指導する。

（2）誤答分析・協議 活用

正答率に課題があった問題の解答類型と反応率をもとに、生徒の抱える課題と課題解決に必要な指導、授業改善の方策について協議を行った。

3 誤答分析・協議

誤答分析を授業改善につなげる視点

- ①解答類型の反応率から、生徒の課題を明確にする。
- ②課題の解決のために、必要な指導・学習を考える。
- ③授業を振り返り、授業改善につなげる。

誤答と 1 (4) 英文とその理由を述べ合う

問題番号	正答率	誤答
1	20.9	You should buy books because cookies are delicious.
2	13.1	
3	3.0	
4	49.9	
5	8.3	
6	9.3	
7	17.6	

誤答理由4
「本は買ってほしい人」というものを認めているが、その意味を学ぶことと課題が異なるためである。

課題解決のためには、どのような授業改善（指導）が必要でしょうか？

【協議の内容】

協議①「聞くこと」必要な情報を聞き取る問題について

生徒の課題：自分の立場や状況が把握できていない。必要な情報を聞き取る技能がない。
 必要な指導：目的・場面・状況を設定した課題の設定。状況が把握できているかの確認。
 必要な情報は何なのかの確認。必要な技能を身に付けるための練習。

協議②「話すこと」自分の考えとその理由を述べ合う問題について

生徒の課題：自分の考えを即興で表現する力が不足している。理由等が浮かばない。
 必要な指導：小学校での学びを生かし、不必要な間を置かずやり取りする指導。
 内容の伝達に重点を置いた言語活動。一人1台端末の有効活用。

(3) 授業改善に向けた演習 **実践**

演習① 英語科における「見方・考え方」「言語活動」について

「見方・考え方」と「言語活動」について

見方・考え方とは？

外国語のコミュニケーションにおける見方・考え方

- この目的のためには、どんな内容をどんな表現で伝えるべきか。
- この場面ではこの相手なら、どんなことに気をつけて伝えるべきか。
- この状況では、どんな情報をどのように伝えるべきか。

「見方・考え方」と「言語活動」について

言語活動とは？

「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」

・実際に英語を使用して考えや気持ちを伝え合う

注：理解や練習のための指導の場面

- 言語材料について理解したり練習したりする
- 内容を深める



小学校から高等学校までの外国語科の目標にある「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」と「言語活動」についての理解を深めるため、その捉え方についての確認と各学校での実践についての情報共有を行った。

演習② 「単元デザインシート」の作成 ～言語活動を通した単元構成の工夫～

「言語活動」を通した授業づくり

言語活動を通した単元計画のイメージ

単元の目標(めあて) → 言語活動 → 学習活動 → 評価

言語活動を通して

授業改善に向けた「単元デザインシート(英語)」

単元の目標を踏まえ、自分の考えや感情を伝えるために、言語活動をスピーチや演劇、音楽、写真制作やグループでまとめた発表活動などができる。

単元	単元目標	単元計画	単元評価
1	単元の目標を踏まえ、自分の考えや感情を伝えるために、言語活動をスピーチや演劇、音楽、写真制作やグループでまとめた発表活動などができる。	単元の目標を踏まえ、自分の考えや感情を伝えるために、言語活動をスピーチや演劇、音楽、写真制作やグループでまとめた発表活動などができる。	単元の目標を踏まえ、自分の考えや感情を伝えるために、言語活動をスピーチや演劇、音楽、写真制作やグループでまとめた発表活動などができる。
2	単元の目標を踏まえ、自分の考えや感情を伝えるために、言語活動をスピーチや演劇、音楽、写真制作やグループでまとめた発表活動などができる。	単元の目標を踏まえ、自分の考えや感情を伝えるために、言語活動をスピーチや演劇、音楽、写真制作やグループでまとめた発表活動などができる。	単元の目標を踏まえ、自分の考えや感情を伝えるために、言語活動をスピーチや演劇、音楽、写真制作やグループでまとめた発表活動などができる。
3	単元の目標を踏まえ、自分の考えや感情を伝えるために、言語活動をスピーチや演劇、音楽、写真制作やグループでまとめた発表活動などができる。	単元の目標を踏まえ、自分の考えや感情を伝えるために、言語活動をスピーチや演劇、音楽、写真制作やグループでまとめた発表活動などができる。	単元の目標を踏まえ、自分の考えや感情を伝えるために、言語活動をスピーチや演劇、音楽、写真制作やグループでまとめた発表活動などができる。

【予想される中間指導】
目的の達成を促す……
……的に入念に行う。

【期待する振り返り】
単元の達成や、ポイントになる……
……が中心になっている。

演習：「単元デザインシート」の作成

- グループでシートの作成 (30分)
- グループを変えて情報共有 (15分)
- 学びや気づきを共有 (5分)

「言語活動を通した授業づくり」の視点から、目指す児童生徒の姿と単元終末の言語活動を設定し、ゴールから逆向き設定で単元計画の作成する演習を行った。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「適切な中間指導」や「期待する振り返り」についても意識し、グループで「単元デザインシート」を作成した。

2 参加者の感想

- ・全国学調、県学調の分析や、誤答からの協議など、大変勉強になった。学校に戻り、教科部会で共有し、授業改善に努めていきたい。
- ・教科指導について、演習形式での研修がこれまでなかったので、今回、他の先生方の実践を共有したり、一緒に考えたりすることができてとても参考になった。また、全国学調と県学調の違いや、授業でどのように活用するかなどもわかりやすく伝えてもらい、勉強になった。
- ・誤答分析を通して、生徒がどのようなところにつまずいており、それに対してどのような指導をしていくべきなのかを考えることができた。単元デザインシートの作成では、単元の目標に対して、逆算して考えることで、ゴールに正対した単元計画を作成することができるとわかり、とても勉強になった。
- ・小中連携の視点からも、とても充実した研修であった。即興でのやり取りや、目的や相手を明確にしたうえで発表させる場面を設定すること、また、児童生徒の困り感や課題を共有し、自力で解決していくことを今後、必ず実践していきたい。
- ・英語科における「見方・考え方」や「言語活動」の大切さを再認識できた。授業づくりについても新たな学びがあり、今後の授業改善に役立てていきたい。

【小学校】生活科

令和6年2月20日（火）

1 授業のポイント

主体的・対話的で深い学びの実現を踏まえた展開

①主体的な学び 学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

【実態の把握】事前にアンケートを実施し、生活経験など、児童の実態を適切に把握し、課題設定に生かすようにしている。



→教師は、「にっこりふやし隊」という称号を与えることで、自分にできることが確実に増えている実感を児童にもたせていた。

【学習への意識づけ】「どうしたら家の人役に立てるだろう？」と疑問をもち、相手意識や目的意識をもって学習できるようにしている。



→教師は、「家族がにっこりになるための工夫」という目的を明確にしたり、単元のゴールを確認したりして活動の見通しをもたせていた。

②対話的な学び 学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

【考えをもつための支援】児童の発言や様子を丁寧に見取り、問いかけたり共感したりするなど考えをもつための支援を適切に行っている。



→教師は、伝え合う活動に入る前に見本を示したり、机間指導をしながら「どうして」「なぜ」と問いかけたりする中で、児童の気付きを称賛や共感しながら自分の考えに自信をもって表現できるように支援していた。

【交流機会の設定】伝え合い交流する機会を設け、無自覚だった気付きを自覚したり、個別の気付きを関連付けたり、自分への気付きを得ることができるようになっている。



→児童は、家で実践した手伝いを家の人に撮影してもらい、その動画や画像を紹介しながら他者と協働して考えることができた。

③深い学び 見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

【思考過程の工夫】思いや願いを実現していく過程では、自分との関わりで対象を捉えることができるようにしている。



→児童は、具体物を用意し、家庭で行っていた手伝いを実演しながら、相互に気付いたことを交流し合い、体験を通して自分なりの工夫を伝え合っていた。

【振り返りの工夫】学習を振り返り、自分のよさや可能性に気付かせるようにしている



→児童は、製作したすごろくや巻物、絵本などの具体物を見合ったり、友達の活動のよさを手本としたりしながら本時の気づきをまとめていた。

2 協議

協議題「本時における子供の気づき（学び）を見取る」

【参会者の気づき等から】

- ・本時では、子供たちが目を輝かせ、自分ができるようになったことを伝え合う姿があった。皆、自分の成長を感じていた。
- ・ブランケットをなかなか上手にたためない児童が何度もやり直していた。教師が「どうしてやり直すの？」と問いかけると、「しわができてきれいじゃないから」と自分の工夫を言葉と体験の両方で表現していた。
- ・自分の実践を巻物にまとめた児童が、「一日目よりていねいにたためるようになった。」「だんだんおおくたためるようになった。」など、自分の成長を誇らしげに友達に伝えていた。



3 参加者の感想

- ・生活科の授業をどういう流れで行うことがよいのか、分からなくなってしまうことが多いが、児童同士をつなげ、主体的に行うことで活発な授業になるということが分かった。
- ・子供たち一人一人の「やってみたい！」を大切にしている授業で、子供たちがとても生き生きしていたと感じた。
- ・様々な地域の先生との意見交流は、自分では見つけられなかったことに気づき、そんな視点もあったのかと無自覚だった気づきが自覚され、自分の考えと比較、関連付けられ、気づきの質が高まり、深い学びにつながった。
- ・子供たちが主体的に学ぶためには、見通しを明確にすることが大事だと感じた。何をするか、何を学ぶのか単元や本時の流れがわかることで子供たちが活発に学び合うものと思った。
- ・体験は子供にとって楽しく、もっとやりたいという気持ちが強い活動だが、そこへ表現活動を入れ、体験と表現を繰り返しながら気づきの質を高めていくことが大切であり、さらに教師の問いかけによって気づきを自覚させ深めることが大切だと分かった。



第1学年2組 生活科学学習指導案

児童数 26名
場所 図工室
指導者

1 単元名 「『じぶんで できるよ』 かぞくにっこりふやし隊」 学習指導要領の内容(2)

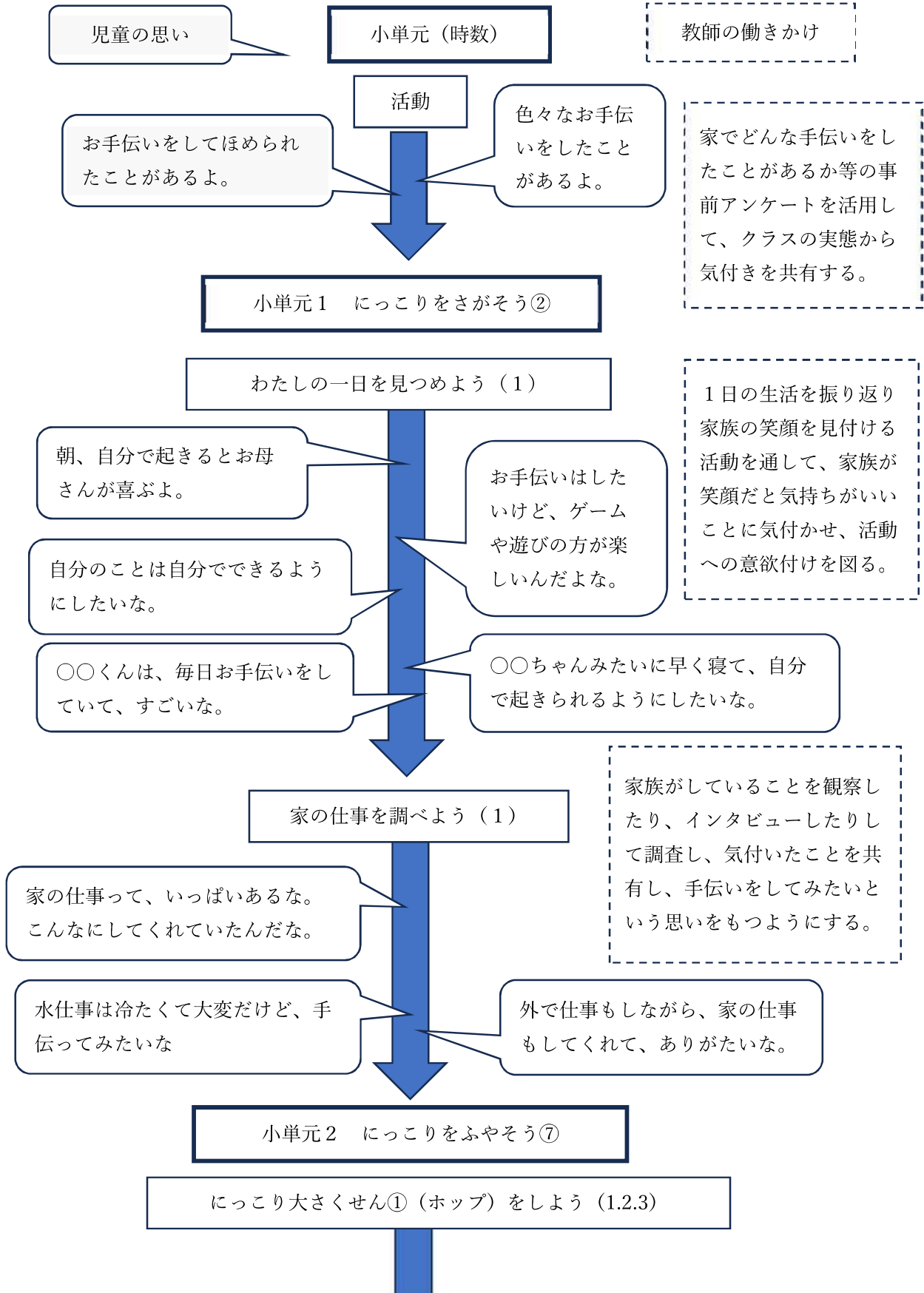
2 単元について

(1) 児童の実態

(2) 単元設定の趣旨と構成上の配慮

本単元は、学習指導要領内容(2)「家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする」を受けて設定したものである。家庭生活について調べたり、尋ねたりすることを通して、家庭での生活は互いに支え合っていることに気付き、自分の役割を積極的に果たし、家族の一員として家庭生活をより豊かにしていくことをねらいとする。児童にとって家族の手伝いは、人の役に立つ喜びを味わうことができる重要な体験である。実際に手伝いをして、家族の思いや願いにも気付きながら、自分なりの思いや願いをもって、活動できるようにする。また、自分のことを自分で果たすことにより、家族との団らんの時間が増え、生活がより楽しく潤いのあるものとなることに気付かせたい。そこで、家での手伝いを調べたり、工夫したことを伝え合ったりして、手伝いをする喜びに気付き、家族の一員として役割を増やすとともに自己効力感を伸ばしていけるようにこの単元を設定した。

(3) 児童の意識の流れ



今まで、布団たたみはお家の人に
してもらっていたけど、自分で
できそうだよ。

自分から掃除をすれば、きれいにも
なるし、きっとママにもほめて
もらえる。がんばろう。

家族が笑顔になるために自分に
できることを考えたり、友達の
考えを聞いたりすることで、活
動への意欲を高め、家での実践
(家庭学習)につなげる。

もっと、にこにこスマイルを貯めたいな。

【家庭での実践①】家でお手伝いを試みよう(週末のみの実施)

〇〇くんは、自分の上履き洗
いをしている、すごいな。わたし
もやってみたい。

〇〇くんは、家
族と過ごす時間
も大切にしてい
るんだな。

友達の取組を知り、応
援し合うことで、「自分
も頑張りたい。」という
意欲を高める。

にっこり大きくせん②(ステップ)をしよう(1.2.3.4)

毎日忘れないで続けられる
か、心配だな。

自分のこともがんばるぞ!

〇〇くんみたいに、新しい仕
事にもチャレンジするぞ。

友達の頑張りを知り、自分の
取組と関連付け、さまざまな
笑顔や嬉しい気持ちがあるこ
とに気付かせる。

【家庭での実践②】家でお手伝いを試みよう(一週間継続して)

〇〇くん、水が冷たいのに頑張
っていて、えらいね。

毎日家族みんながにこにこ喜んでく
れて、うれしいな。

ずっと、玄関掃除を続けてい
きたいな。

繰り返し活動する中で、家族の
笑顔はどのように変わっていっ
たか問い掛け、自分の頑張りによ
る生活の変化に気付かせる。

続けられて自信がついてきたぞ。



小单元3 これからのにっこりせいかつ③

自分でできたことを発表しよう (1) 【本時】

食器洗いは、一回ずつ流さないで、全部洗ってから流すといいと、ママに教えてもらったよ。

毎日続けるのは、大変だったよ。毎日やってくれている家族はすごいな。ありがたいな。

〇〇くんが皿洗いでしている工夫はいいな。自分も真似して、お手伝いしてみよう。

継続して手伝いをしてきた活動を振り返り、自分の頑張りや工夫したことを友達に伝え合い、友達の頑張りも認めながら、これからもできることを続けていこうという気持ちをもつようにする。

ふとんたたみで角を全部そろえることをやってみたい。

〇〇さんは、洗ったお皿に泡が残らないように、裏側から流していたよ。

自分にできることをもっとふやしていきたいな。

〇〇くんは、ペットの散歩を忘れないでできるようにやる時間を決めていたよ。

自分のことを自分でやることも家族の助けになっているんだ。

規則正しく生活することの大切さがわかったよ。

家族のためにこれからもがんばるからね。家族の時間をもっと大切にしたい。

家族に感謝の手紙を書いて伝え合おう (2)

外で仕事もしながら家の仕事をしてくれてありがとう。家の仕事を少しでも助けるよ。

おいしいご飯を作ってくれてありがとう。これからも残さず食べて、お手伝いもするからね。

活動を振り返り、自分のよさや家族が支えてくれたことに気づき、家庭での自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしていこうという気持ちをもつようにする。

3 単元の目標

家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとするができるようにする。

4 単元の指導計画・評価計画 1月～2月 12時間

(1) 単元の評価規準

【評価資料 121 ページ及び「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 65 ページ参照】

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準		家庭生活に関わる活動を通して、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かっている。	家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えている。	家庭生活に関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとしている。
学習活動（小単元）における評価規準	1		①家庭生活を思い起こし、家族のことや自分のこと、自分がしていることについて表現している。	①家族のことに関心をもち、家庭生活を見つめようとしている。
	2	①自分の力でできていることや家族が自分のためにしていることに気付いている。 ②自分でできることが増える喜びや家庭での自分の役割、家族と交流することのよさや楽しさが分かっている。	②家族の存在や役割、喜ぶことを意識して、自分でできそうなことを集めている。 ③自分の作戦を振り返りながら、継続して取り組みたいことを決めている。	②家族のためという願いをもって、自分でできることに何度も繰り返し取り組もうとしている。 ③家庭生活をよりよくするために自分の取組を見直しながら、自分の役割を果たそうとしている。
	3	③家族の大切さや自分が家族によって支えられていること、自分も家族を構成する大切な一人であることに気付いている。	④家庭生活をよりよくするために、これまで取り組んだ自分の活動の工夫や気付いたことを紹介し、友達の活動のよさを参考にして、もっと自分でできることを表現している。	④自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けるようになったりした自分に自信をもって生活しようとしている。

(2) 単元の指導計画・評価計画 (計 1 2 時間)

【埼玉県小学校教育課程指導・評価資料 121 ページ参照】

小単元名 (時数)	◎小単元の目標 ○主な学習活動	小単元の 評価規準 との関係	評価規準から想定した具体的な子供の姿 評価方法
1 にっこりをさがそう (2時間)	<p>◎家族がどんなときになっこりするか思い起こし、家族に聞いたりする活動を通して、家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の家庭生活を見つめたり、自分の役割を果たそうとしたりしようとしてすることができるようにする。</p> <p>○家庭で自分が毎日していることを調べる。 (1)</p> <p>○になっこりとなった体験を家族にインタビューをし、気付いたこと(になっこりチャンス)について話し合う。(1)</p>	<p>態-①</p> <p>思-①</p>	<p>・起きてから寝るまでに自分が家でしていることを順序良くまとめている。 <input type="checkbox"/> 発 <input type="checkbox"/> カ <input type="checkbox"/> つ</p> <p>・家でできることについて、家族のになっこりうれしい気持ちが増える場面を考えると共に、おうちの人にインタビューし、になっこりチャンスを発見している。 <input type="checkbox"/> 発 <input type="checkbox"/> カ</p> <p>・調べたことを友達と伝え合い、互いの頑張りやよさを認め、次への活動の意欲を高めている。 <input type="checkbox"/> 発 <input type="checkbox"/> カ <input type="checkbox"/> 相</p>
2 にっこりをふやそう (7時間)	<p>◎家族や自分の「になっこりうれしい」を増やす計画を立て実行したり、友達とよさを伝え合ったりする活動を通して、家族のことや自分でできることについて考え、家庭の温かさや家族のよさ、自分の役割に気づき、できることを積極的に果たそうとすることができるようにする。</p> <p>○家族のになっこりを増やす計画を立て、実行する。(1) 【家庭での実践①】</p> <p>○実行して気付いたことやわかったことを伝え合う。(1)</p> <p>○家族のもっとになっこりになる計画を立て実行する。(2) 【家庭での実践②】</p> <p>○工夫したことや仕事のコツ、継続してできる</p>	<p>態-②</p> <p>思-②</p> <p>知-①</p> <p>思-③</p> <p>知-②</p> <p>態-③</p>	<p>・家族のになっこりのために自分のできることを見付けている。 <input type="checkbox"/> 発 <input type="checkbox"/> カ</p> <p>・家族のになっこりうれしいのために、自分が実践して気付いたことやわかったことを動作や言葉で伝えている。 <input type="checkbox"/> 発 <input type="checkbox"/> つ</p> <p>・家の人と協力し、活動の様子を写真や動画で撮影し、手伝い等をしている時の工夫やコツを集めている。 <input type="checkbox"/> カ</p> <p>・自分でできることを、自主的に繰り返し家庭で取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 行 <input type="checkbox"/> 発 <input type="checkbox"/> カ</p> <p>・家族や自分のしていることが、家族のになっこりうれしいにつながっていることを発表したり、自分に合った方法でまとめ</p>

	ようになったことなどをカルタや絵本、巻物などにまとめる。(3)		たりしている。 ・家庭生活をよりよくするために取り組んだことを振り返りながら、友達と交流し、認め合っている。
3 これからのにっこりせいかつ (3時間)	◎家庭生活に関わる活動を振り返ることを通して、家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとするができるようにする。		
本時 10/12	○継続してできるようになったことや発見した工夫を伝え合う。(1) ○家族のよさ、自分のよさに気付き、家族の時間を大切にしながら感謝の手紙を書く。(2)	思-④ 知-③ 態-④	・自分の活動の工夫や気付いたことを紹介し、友達の活動のよさを参考にして、もっと自分でできることを表現している。 ・自分も家族を構成している大切な一人であることに気付き、家族の温かさや家族一人一人のよさを家族への感謝の手紙に書いている。 ・できることが増えたことに自信をもちながら、生活のリズムを整えたり、健康に気を付けたりするようになった自分に自信をもって生活しようとしている。

【行行動観察、カカード分析、発発言分析、相相互評価、つつぶやき分析による評価を示す。】

5 本時の学習指導 (10 / 12時)

(1) 本時の目標

○家庭生活に関わる活動を通して、家庭生活をよりよくするために、これまで取り組んだ自分の作戦について紹介し合い、友達の活動のよいところを認めるとともにこれからも頑張っ続けていきたいことなどを表現することができるようにする。

(2) 展開

児童の活動 ・児童の意識	評価 (●) と支援 (○)	時間
1 前時までの活動を振り返る。(既習の確認)	○前時までにまとめたカルタや絵本などから、よい気付きを取り上げ、もっとできることを増やしたいという思いをもてるようにする。 ○称号を与えることで、自分が主体となって活動するという意欲を高める。	3分

<p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・続けるのは大変だったけど、家族のみんなが喜んでくれたよ。 ・ちょっとずつ上手にできるようになったよ。 ・みんなに頑張ったお手伝いを見てもらいたいな。 			
<p>2 本時の活動を確認し、見通しをもつ。</p>	<p>できたことを はっぴょうし よいところを見つけよう。</p>	<p>2分</p>	
<p>3 これまで取り組んだ自分の作戦について紹介し合おう。</p>	<p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水を使う仕事は手が冷たくて、大変だったよ。 ・布団をたたむときは、角をそろえてしわにならないようにすると気持ちいいよ。 ・同じ時間にお手伝いをすると忘れないでできたよ。 ・早寝早起きをして、リズムよく生活するとお手伝いをする時間がつくれたよ。 ・少しずつお皿を洗う量が増え、時間も少なくなり、上手になったよ。 ・自分が頑張った分、家族が楽になって、一緒に過ごす時間が増えたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までに家庭で活動してきたことを、それぞれがまとめてきたものを使って交流し、インタビューし合う活動を参考に、これからも「にっこり」を増やしていきたいという意欲付けをする。 ○安心して学べる環境を整えるために、教師がモデルを提示する。 ○教師が示したモデルに対して数名の児童にインタビューをさせ、称賛する。 ○4～5人程度の班で伝え合う活動を行う際に、様々な手伝いをした児童で構成するように、生活班で設定する。 ○実演や写真、動画をもとに、できるようになった自分のことを伝え、インタビューし合う中で友達のよさも認め合う雰囲気を作る。その際、手伝いの実演をしたり、写真で紹介したり、伝えやすい方法を自分で選べるようにする。 ○聞く側は、よいところを中心に聞き、コツを教えてもらったり、試したり、インタビューしたりするよう伝える。 ○特定の子だけが質問することがないように、「つたえ合いタイム」のルールを提示する。 	<p>20分</p>

4 発見した友達の活動のよいところを全体で共有する。

- ・○○くんは、ペットの散歩を忘れないでできるようにやる時間を決めていたよ。
- ・ふとんたたみで角を全部そろえることをやってみたい。
- ・○○さんは、洗ったお皿に泡が残らないように、裏側から流していたよ。
- ・玄関掃除のときに、家族みんなの靴をしまってからやると早いとわかったよ。

5 本時の活動を振り返る。

<予想される児童の反応>

- ・続けていくことは大変だったけど、お家の人のがにこにこになってくれた。
- ・みんな頑張っているから、ぼくもお手伝いを続けていきたい。
- ・○○くんのおかげで食器洗いのコツがわかったから、やってみたい。
- ・家族の役に立てるのはうれしい。もっとちがうお手伝いも増やしていきたい。

●①自分のできたことや友達の活動のよいところを認めるとともに、②家族の温かさや家族一人一人のよさを表現している。

【思・判・表④】 発 カ

※①に気付いている児童を B とし、①と②の両方に気付いている児童を A とする。

⇒なかなか発表ができない児童へは、前時までに記録した「できたよカード」を活用して表現するように促す。

○グループ発表の際の机間指導で気づきが深まる発表をしている児童を見つけ、称賛する。

○工夫しながら生き生きと手伝いをしている児童の写真や動画をモニターに掲示し、全体で共有する。

○教師がインタビューをするように発言を促し、発言への意欲を高める。

○家族の支えに感謝し、応えようとしている児童の発言を取り上げ、称賛する。

○似顔絵マークを塗ることで、書き始めやすいよう工夫する。

○なかなか記録が進まない児童へは、振り返りの視点をヒントカードとして手元に配り、支援する。

【視点】

- ・気づいたこと
- ・わかったこと
- ・ふしぎにおもったこと
- ・やってみたいこと など

12分

7分

<p>6 次の時間に学習することを確認する。</p>	<p>○継続していくことやもっとやりたいことが発見できた児童のものを取り上げ、価値付ける。</p> <p>○家族の感想を聞く活動を次の時間に学習することを伝え、継続していく意欲につなげる。</p>	<p>1分</p>
----------------------------	--	-----------

6 板書計画

じぶんで できるよ「かぞくのにっこりふやし隊」

じぶんのこと
いえのしごと
手伝い

😊 もっとにっこり

① できたことを はっぴょうし よいところを 見つけよう。

つたえ合いタイム

1の2 にこここ はっぴょう会

教師が家事をしている
写真

①しょうかい
じぶんで できた
かぞくにっこり

インタビューの
視点

②いいねタイム

インタビュー

じぶんで できたよ

子供の手伝いの
写真

まとめ お手つだいができる
→ つづけてやる
ひとりでやる
いえの人がたすかる 😊

ふりかえりタイム

二月二十日（火）

7 本時のワークシート（B4サイズ）

<p>じぶんで できるよ「かぞくのにっこりふやし隊」</p> <p>① 月 日</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>め</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ふ 😊 😐 😄 😞</p> <hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/> </div>	<p style="text-align: right;">これからの にっこり せいかつ</p> <p style="text-align: center;">くみ ばん ()</p> <p>② 月 日</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>め</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ふ 😊 😐 😄 😞</p> <hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/><hr/> </div>
--	--

【中学校】技術・家庭（家庭分野）

令和5年12月7日（木）

授業提案者

1 授業のポイント

主体的・対話的で深い学びの実現を踏まえた展開

①主体的な学び 学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

【目的の明確化】何のために学習するのか、その目的を明確にすることによって、生徒が学ぶ意義を自覚し、主体的に学習に取り組むことができるようにしている。



→教師は、「家族がこちよく暮らすための空間の工夫」という目的を明確にし、課題の見通しをもたせた。

【学習意欲の涵養】「なぜ、そのようにするのだろうか？」と疑問をもち、試行錯誤をする活動を通して知識及び技能の習得に粘り強く取り組むことができるようにしている。



→生徒は、家の間取りについての構想を考えるために、ホワイトボード、1人1台端末を利活用し、試行錯誤する活動を通して、学習に粘り強く取り組んだ。

②対話的な学び 学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

【思考の可視化】グループの考えをホワイトボードなどに整理し、それらを集約・分類するなど、互いの考えを可視化し、比較できるようにしている。



→教師は、ホワイトボード、1人1台端末の両方を生徒に利活用させた。視覚的に互いの考えを広げ深めさせるために、他者と協働させ、家の間取りを完成させた。

【考えの交流】よいところやアドバイスなどを交換し合い、改善策につなげるような話し合い活動をできるようにしている。



→生徒は、グループ内で将来の家の間取りについて考えを深めることができた。間取りを考える際に理由・工夫点も含めて他者と協働して考えることができた。

③深い学び 見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

【発問の工夫】「なぜ、そのようにするのか」など「見方・考え方」を引き出したり、鍛えたりする発問を工夫し、意図的に行うことで、生徒が「見方・考え方」を働かせながら思考できるようにしている。



→教師は、見方・考え方を働かせることができるよう「健康・快適・安全」を意図的に課題に取り入れた。

【教室環境や資料提供の工夫】生徒が「見方・考え方」を働かせながら思考を深めることができるよう、教室環境や教材・教具の工夫を図っている。



→生徒は、ホワイトボード、1人1台端末の両方又は片方をグループの意思で選択し、課題に取り組んだ。

2 協議

協議① 家庭分野で1人1台端末の利活用状況はどうか？

- 生徒同士の情報交換での利活用
- アンケート集約
- 動画視聴
- レポート提出
- 実習等での作品の記録
- 調べ学習
- 家庭での実践を1人1台端末で記録

協議② 家庭、家庭分野で小中連携がとれていますか？
どんな情報共有が必要ですか？

- 校区の小中学校連携はとれていない。
- 小学校、中学校ともに授業内容の共有があれば、準備がしやすい。
- 長期休業中等で、小学校、中学校の教科部会があるとい。
- 授業参観や出前授業等が行えるとよい。



3 参加者の感想

- 小・中合同で家庭科の研修会を行うことは大変意義があった。授業参観や意見交換の必要性を感じ、貴重な研修になった。
- 他校の取組や小学校の様子等がわかってよかった。意見交換の場がないので、とてもよい機会になった。
- 小学校の先生と意見交換ができてよかった。
小・中連携することで時間を無駄なく活用することにもつながる。実現できたらよいと思う。
- 一人教科で日々忙しく、教科での取組を確認できてよかったです。ICT機器の活用方法も知ることができた。
- 家庭科での小・中のつながりを意識することができた。また気軽に中学校の授業を参観できるようになるとありがたい。
- 初めて家庭科で小・中合同研修会が開催されたと思った。小・中連携がとれることで、授業がスムーズに進むと思った。
- 小・中で情報交換することで、今後の学習に活用することができた。小学校の内容を確認し、指導に生かしていきたい。
- 1人1台端末を、本日の研修を参考に活用していきたいと思った。



第1学年2組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日 時：令和5年12月7日(木)第5校時

場 所：

指導者：

1 題材名 「安全で快適な住まい」 家庭分野 内容B 衣食住の生活 (6) ア(ア)(イ)、イ

2 題材について

(1) 生徒について

(2) 題材について

近年、畳や布団など日本の伝統的な和式の住まいから、寝室にはベッド、キッチンにはテーブルとイス等を取り入れた洋式の住まいが増え、和式と洋式それぞれの特徴を生かした和洋折衷の住まいも多くなっている。また、家族構成は核家族化が進み、二世帯住宅はあまり見られなくなった。

本題材は、「B衣食住の生活」(6) A及びIとの関連を図っている。小学校の学習における、雨や風、暑さ・寒さなどの過酷な自然から人々を守る働きに加え、中学校では心身の安らぎと健康を維持する働き、子どもが育つ基盤としての働きなどが住まいにはあることを理解させるとともに、日本のそれぞれの地域の気候風土に合わせた住まいの造りや、伝統文化を生かした日本特有の住まいについての学習を通して、生活文化の継承につなげることができる。小学校で学んだ整理・整頓や清掃のしかた、通風・換気などの快適な住まいの環境に関する既習事項を生かし、住まいの中に潜んでいる危険を見つけ、家庭内事故を防止し、安全な住まい・安全な暮らしについて考えさせる。日本は、地震や台風などの自然災害が多く起こることから、災害への対策としての住空間の整え方、資源や再生可能エネルギーを活用したこれからの住まいや、誰もが住みやすい環境を目指した住生活について、SDGsとの関わりを踏まえ理解させることができる。

本時では、LDKの意味を知り、間取りの見方、数え方を理解させたい。また、小学校の学習における暑さ・寒さに応じた住まいの工夫や通風・換気、採光に関する工夫、和式・洋式の違いや家族の安全など、これまでの授業で学んだ知識を生かし、家族構成等の条件を設定して将来住みたい家の間取りを思考できるようにする。

これらを通して、本題材は、健康・快適・安全な住生活について考え、工夫することができる力を養える題材である。

(3) 指導について

本題材は、住まいについて、住居の基本的な機能について理解し、家庭内の事故を防ぐとともに、自然災害に備えるための住空間の整え方に関する知識を身に付け、家族の安全を考えた住空間の整え方を工夫できるようにすることをねらいとしている。

住まいのはたらきとこちよさについては、住まいの基本的な機能や生活行為によって、住まいの空間が分けられることをパワーポイントで提示していく。実際の写真を用い、日本の各地域の気候風土に合わせた住まいの特徴を理解させるとともに、ふすまや障子、畳、床の間などの日本の伝統的な住まいについて具体的に理解させることで、現代の住まいは和洋折衷の住まい方が多く見られることに気付かせたい。また、家庭内事故の原因や幼児や高齢者の発生件数が多いことを知り、住空間を想像できるような図を用いて、住まいに潜む危険を見つけ、家庭内事故を防ぐ手立てを考え発表し、評価・改善させる。空気環境・防犯対策・災害への備えについて写真や図、動画などを用いて可視化する。屋内と屋外のそれぞれの場面で災害が起きた際にどのような行動をとれば良いかを考え、発表を通し実践につなげる。これらを踏まえ、幼児や高齢者など様々な年齢で構成される家族が、住居内で安全に生活できるよう住空間を整える必要があることについて理解させる。また、ノーマライゼーションを目指すためにバリアフリーやユニバーサルデザインの工夫があることを知り、身近なバリアフリーやユニバーサルデザインについての理解を深めさせる。指導全体を通し、自身にできる行動を発表し、他者の意見を取り入れ、考えを深めることで多面的・多角的な視点が得られるようにしたい。

本時では、LDKの意味や間取りの見方、数え方を理解するために、パワーポイントを活用した説明を行う。また、家族がこちよく暮らすための住まい方を工夫することができるよう、将来の家族のかたち等の条件を設定し、将来の家の間取りを考えさせる。その際、iPad上のアプリやホワイトボードを用い、生徒の思考を可視化したり、互いの考えを瞬時に共有したりしながら、主体的・対話的に課題に取り組み、自己の考えを広げ深めさせる。また、様々な視点が得られるよう少人数で課題に取り組みさせる。班ごとに発表し、他の班の意見を聞くことでさらに多様な意見を得られるようにする。その後、グループで思考したことを参考にしながら、個人で将来住みたい家の間取りを考えさせる。このような活動を通し、家族の安全を考えた住空間の整え方を工夫することのできる力と、これからの生活を展望して、住生活の課題を解決する力を養い、住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成したい。

3 題材の目標

- (1) 家族の生活と住空間との関わり、住居の基本的な機能、家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解する。
<知識及び技能>
- (2) 家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
<思考力、判断力、表現力等>
- (3) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。
<学びに向かう力、人間性等>

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・家族の生活と住空間の関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解している。 ・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 	家族の安全を考えた住空間の整え方について問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

5 題材の指導と評価の計画（5時間扱い）

小題材	時間	○ねらい ・学習活動	評価規準と評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
住まいのはたらき・空間①	1	○住まいの基本的な役割、日本の伝統的な住まいの特徴を理解することができる。 ・住まいにはどのような役割、空間があるか理解する。 ・日本の気候風土に合わせた伝統的な住まいについて知る。	住居の基本的な機能について理解している。 ・ワークシート		
家庭内の事故への備え	2	○家庭内の事故の種類とその原因を知り、幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について工夫することができる。 ・住まいの中にはどのような危険があるかを見つけ、家庭内事故を防止するための対策を考える。 ・空気環境の安全対策や防犯対策について理解する。	家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 ・ワークシート	家族の安全を考えた住空間の課題について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。 ・発表 ・ワークシート	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・ワークシート
住まいのはたらき・空間②	3 (本時)	○住まいの空間の使い方について理解し、さまざまな生活によって、住まい方の工夫があることを理解する。 ・LDKの意味と間取りの見方を理解する。 ・家族構成等を設定し、将来住みたい家について考える。	住まいの空間の使い方について理解し、家族がこちよく暮らすために、住まい方の工夫を考えることができる。 ・ワークシート		

災害への備え	4	○さまざまな災害に備えて、室内を安全に整備する必要とその方法について理解することができる。 ・動画の視聴を通して、地震への備え方を考え、発表する。 ・屋内にいるときや外出時などそれぞれの場所で災害が発生したときの行動を考える。	自然災害への事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 ・ワークシート		
持続可能な住生活をめざして	5	○持続可能な社会の実現に向けて、住まい方を工夫することができる。 ・誰もが住みやすい環境にするためにどのような工夫があるのかを知り、バリアフリーやユニバーサルデザインにはどのような例があるかを考える。 ・SDGsと住生活との関わりを考え、自身はどのような行動ができるかを考える。		社会や環境に配慮した住生活について考え、工夫している。 ・発表 ・ワークシート	自立した消費者として、社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組み、工夫し創造し、実践しようとしている。 ・ワークシート

6 本時の指導計画(本時 3/5)




(1) 本時の目標

- ・住まいの空間の使い方について理解し、家族がこちよく暮らすために、住まい方の工夫をすることができる。(知識及び技能)

(2) 展開

学習活動	学習内容	・指導上の留意点 ◆評価 ★ICT活用の方法
1 有名人の家の間取りの動画を視聴する。	○間取り動画の視聴	★iPadを用いた動画の提示 ・動画を視聴する際、どこに注視して見るか、教員から指示する。
2 本時の課題を知る。	○課題の把握	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 〈学習課題〉 家族がこちよく暮らすためには、どのように空間を工夫したら良いだろうか。 </div>		
3 本時の流れを知る。	○本時の流れ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ～本時の流れ～ ・LDKの意味、間取りの見方や数え方 ・将来の家の間取り(グループ) ・将来の家の間取りの発表 ・将来の家の間取り(個人) ・将来の家の間取りの発表 ・まとめ ・振り返り </div>	・黒板に授業の流れを提示し、本時の学習の必要性を感じさせながら、50分の流れを説明する。

<p>4 課題の見通しを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・暑さ・寒さに応じた住まいの工夫 ・通風・換気、採光に関する工夫 ・和式・洋式の違い ・家庭内事故への備えと家族の安全 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題を解決させるための方法や手段を、前時までの学習内容、小学校で学んだ内容から考えさせる。
<p>5 LDKの意味、間取りの見方や数え方を知る。</p>	<p>○LDKそれぞれの意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・L…リビング(居間) ・D…ダイニング(食堂) ・K…キッチン(台所) <p>○間取り図の見方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・LDKの前につく数字はLDK以外の部屋の数であることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★iPad を用いたパワーポイントの提示 ・LDKそれぞれがどのような意味を表しているか板書や写真を見せながら理解させる。 ・LDKの前につく数字にはリビング、ダイニング、キッチンやクローゼット、トイレなどは含まれないことを伝える。
<p>6 将来の家の間取りを考える。(グループ学習)</p> <p>・A (1、2、3班) に取り組む。</p> <p>・B (4、5、6班) に取り組む。</p> <p>・C (7、8、9班) に取り組む。</p>	<p>○将来の家の間取りについての構想</p> <p>A. あなたは今深谷市に夫婦(25歳)、子ども(1歳)の3人家族で新居を建てようとしています。家族の住みやすさ、暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含め、家の間取りを考えましょう。</p> <p>B. あなたは今深谷市に夫婦(40歳)、子ども1人(13歳)、祖父母(70歳)の5人家族で家を建てようとしています。家族の住みやすさ、暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含め家の間取りを考えましょう。</p> <p>C. あなたは25歳男性です。就職が決まり、東京で一人暮らしをしようと考えています。自分の住みやすさ、暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含め家の間取りを考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★iPad を用いた学習 ・教室は約35帖、寝室や子ども部屋の平均は6～8帖であることを伝え、間取りを考えやすくする。 ・キーワード(テーマ)を提示し、どこに重点を置いて間取りを考えるかを決め、理由と工夫点を考えやすくする。 ・自分の将来の家の間取り(家族の住みやすさや暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含む)を考え、iPad またはホワイトボードにまとめるよう指示する。 ・間取りを考える際に、理由と工夫点も含めて考えるよう伝える。 ・Aでは幼児への視点、Bでは高齢者への視点、Cでは単独世帯の視点で考えさせる。 ・手がつかない班にはハウスメーカー等の住まいの工夫等の情報を与える。 ・手がつかない班には押さえない住居の機能等を意図的に指示し考えさせる。
<p>7 将来の家の間取りを発表する。</p> <p>・数班、まとめた内容を発表し合う。</p>	<p>○将来住みたい家の間取り、その理由についての発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ★iPad を用いた発表 ・数班の意見を教員が写真を撮ってプロジェクターに写し、全体理解を図る。

<p>8 将来の家の間取りを考える。(個人学習)</p>	<p>・ Aの間取り(例)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が成長した際のために、子ども部屋を作った。 ・ 家庭内事故を防ぐため、洗濯機はドラム式ではなくタテ型にする。 ・ 伝統文化の継承のため、和室を作り、団らんや接客を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表をするとき、家族の健康・快適・安全に視点を置いて発表するよう指示する。 ・ 発表を聞く際は発表者に注目するよう指示する。
	<p>・ Bの間取り(例)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者はベッドの方が起き上がりやすいため、洋室を祖父母の部屋にする。 ・ 家庭内事故を防ぐため、階段には手すりをつける。 ・ 段差を少なくする。 	
	<p>・ Cの間取り(例)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人暮らしなので部屋数を少なくし、アパートに住む。 ・ 快適に過ごすため、トイレと浴室は別々にする。 ・ 換気や日の当たりをよくするため、窓を多くする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の将来の家の間取り(家族の住みやすさや暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含む)を考え、ワークシートにまとめるよう指示する。 ・ キーワード(テーマ)を提示し、どこに重点を置いて間取りを考えるかを決め、理由と工夫点を考えやすくする。
<p>○将来の家の間取りについての構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢、場所、家族構成、人数を自分で設定する。 <p>あなたは今__歳です。__場所に__家族構成__の__人家族で家を建てようとしています。家族の住みやすさ、暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含め家の間取りを考えましょう。</p>		

<p>9 将来の家の間取りを発表する。 ・数名発表する。</p> <p>10 他者の意見を聞き、評価・改善する。</p>	<p>○将来住みたい家の間取り、その理由についての発表</p> <p>○将来住みたい家の間取りについての評価</p>	<p>・間取りを考える際、理由と工夫点も含め考えるよう伝える。</p> <p>◆住まいの空間の使い方について理解し、家族がこちよく暮らすために、住まい方の工夫を考えることができる。【知識・技能】(ワークシート)</p> <table border="1" data-bbox="1005 537 1362 1518"> <tr> <td data-bbox="1005 537 1157 1008"> <p>おおむね満足できる状況(B)</p> </td> <td data-bbox="1157 537 1362 1008"> <p>・将来の間取りについて家族の住みやすさや、暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含め自分なりに工夫しながら考えることができる。 →家族が心地よく暮らすために工夫できることや、気候に対する工夫などを考えるよう助言する。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1005 1008 1157 1518"> <p>満足できる状況(A)</p> </td> <td data-bbox="1157 1008 1362 1518"> <p>・将来の間取りについて家族の住みやすさや、暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含め自分なりに工夫をし、実態を含め具体的な理由を考えることができる。 →家族の健康や安全、気候に対する工夫などを理由に記入するよう助言する。</p> </td> </tr> </table>	<p>おおむね満足できる状況(B)</p>	<p>・将来の間取りについて家族の住みやすさや、暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含め自分なりに工夫しながら考えることができる。 →家族が心地よく暮らすために工夫できることや、気候に対する工夫などを考えるよう助言する。</p>	<p>満足できる状況(A)</p>	<p>・将来の間取りについて家族の住みやすさや、暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含め自分なりに工夫をし、実態を含め具体的な理由を考えることができる。 →家族の健康や安全、気候に対する工夫などを理由に記入するよう助言する。</p>
<p>おおむね満足できる状況(B)</p>	<p>・将来の間取りについて家族の住みやすさや、暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含め自分なりに工夫しながら考えることができる。 →家族が心地よく暮らすために工夫できることや、気候に対する工夫などを考えるよう助言する。</p>					
<p>満足できる状況(A)</p>	<p>・将来の間取りについて家族の住みやすさや、暑さ・寒さ、日の当たり、和洋等を含め自分なりに工夫をし、実態を含め具体的な理由を考えることができる。 →家族の健康や安全、気候に対する工夫などを理由に記入するよう助言する。</p>					
<p>11 本時のまとめをする。</p>	<p>○本時のまとめ</p>	<p>・それぞれの住まいのかたちによって様々な住まい方の工夫ができることを、生徒のワークシートの記述や発言内容を絡めてまとめる。</p>				
<p>12 授業の振り返りをする。</p>	<p>○振り返り</p>	<p>・分かったことだけでなく、授業を通しての自分の意見の変化やこれからの生活に生かしていきたいこと等を書くよう指示する。</p>				
<p>家族が快適に過ごすためには、家族の人数や年齢に合わせた間取りを工夫する。和洋の住まい方を生活スタイルに合わせて工夫すると良い。</p>						

動画出典 : https://youtu.be/-BnK_7jGm3Y?si=GnKpPKEHcg9y11t

7 板書計画

<本時の課題> 家族がこちよく暮らすためには、どのように空間を工夫したら良いだろうか？

健康・快適・安全

1. LDK とは

L (リビング) =居間

D (ダイニング) =食堂

K (キッチン) =台所

1 LDK
↑
部屋の数

2. 将来の間取りを考えよう(グループ)

A. 深谷市に夫婦(25歳)と子ども(1歳)の3人で暮らす

B. 深谷市に夫婦(40歳)、子ども1人(13歳)、祖父母(70歳)の5人で暮らす

C. 25歳男性、東京で一人で暮らす

工夫点

- ・ _____
- ・ _____
- ・ _____
- ・ _____

幼児

安全

伝統文化

高齢者

安全

健康

一人暮らし

快適

日当たり

○まとめ

家族が快適に過ごすためには、家族の人数や年齢に合わせて間取りの工夫をする。和洋の住まい方を生活スタイルに合わせて工夫すると良い。

1.LDKの意味、間取りの見方・数え方

2.将来の家の間取り(グループ)→発表

3.将来の家の間取り(個人)→発表

4. まとめ

5. 振り返り